

うぶね[鵜舟] 2019年11月発行

岐阜大学医学部附属病院広報誌

Vol.42

Gifu University Hospital

うぶね

今回の表紙は
がんセンターの
皆さんです!



特集1

がんセンター 森重 健一郎

特集2

がんセンター 部門紹介(抜粋)

トピックス

キッズサマースクールなど

お知らせ&NEWS

患者満足度調査の公表

がん医療水準の向上を目指しています

岐阜大学医学部附属病院
がんセンター センター長 **もり しげ けん いちろう**
森重 健一郎

PROFILE

1985年／大阪大学医学部産科婦人科学教室入局
1992年／アメリカ合衆国メイヨークリニックに留学
2002年／大阪府立成人病センター婦人科参事兼医長
2006年／大阪大学大学院医学系研究科講師
2007年／大阪大学大学院医学系研究科准教授
2010年／岐阜大学大学院医学系研究科教授
2010年／大阪大学国際医工情報センター招聘教授
2018年／岐阜大学医学部附属病院副院長
2018年／岐阜大学医学部附属病院がんセンター長

がんは、日本では1981年より死因の第1位であり、生涯のうち2人に1人ががんに罹患すると推計されています。またがん患者の約3人に1人が就労可能年齢(20～64歳)で罹患しています。改めて言うまでもなく、がんは国民の健康にとって重大な課題です。

わが国では2007年4月にがん対策基本法が施行され、この基本法に基づき、がん対策の総合的な推進を図るため第1期がん対策推進基本計画が策定され、2017年には第3期基本計画が策定されています。この国の基本計画をもとに岐阜県版基本計画も策定されています。

その中では、がん対策の重点課題が「がん予防」「がん医療の充実」「がんとの共生」の3分野に分けて整理されています。「がんの予防」では、1次予防としての喫煙対策と2次予防としての根拠を伴った対策型検診での受診率の向上が必須とされました。「がん医療の充実」については、特に「がんゲノム医療」「小児がん・AYA世代※・高齢者のがん対策」が強調されています。「がんとの共生」に関しては、「がん患者・家族への相談支援と情報提供」「就労を含めた社会的支援」などが示されています。

※思春期・若年成人



2006年に岐阜大学医学部附属病院に「腫瘍センター」が設置され、2008年よりがん診療連携拠点病院指定要件改定に伴い「がんセンター」と改変されました。吉田和弘・前がんセンター長(現病院長)は、患者さんやその家族から「大学病院に来てよかった」と言ってもらえるような病院を目指す、目標を掲げました。岐阜大学医学部附属病院・がんセンターは、まず自らの病院においてがんゲノム医療をはじめとするがんの最先端の医療を実施し、臨床的・研究的治験を含めた新規のがん治療の開発を全国のがんセンターや大学病院と連携して進めています。またがんとの共生にかかわる患者・家族へのサポートとして、今年度は厚生労働省が推進するがん患者の仕事と治療の両立支援モデル事業においてモデル医療機関に選ばれ、仕事と治療の両立に悩む患者さんへの支援に積極的に取り組んでいます。さらには一病院だけではできない診療目的(たとえば若年がん患者の妊孕性温存、遺伝性腫瘍への診療サポートなど)に応じて県下のほかのがん診療病院とネットワークを作るなど、岐阜県地域がん診療連携拠点病院として県下のがん診療病院を牽引して岐阜県のがん患者とともに歩んでいます。

がんゲノム医療とは

「がん」は様々な遺伝子の異常が積み重なることで発症し、その遺伝子の異常は個々の患者さんごとに異なることが近年の研究により判ってきました。がんゲノム医療とは、遺伝子情報に基づく個別化医療の1つです。主にがんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ、遺伝子異常を明らかにすることにより、一人ひとりの体質や症状に合わせて治療などを行う医療です。遺伝子レベルでご自身のがんを知ることは、治療薬などの治療方針の選択に役立ち、副作用の軽減や病状の緩和などが期待できます。

受診・検査の流れなど
詳しくはWEBで



セカンドオピニオン

セカンドオピニオンは、直訳すれば「第2の意見」で、診断や治療方針について、主治医以外の医師の意見のことをいいます。本院では複数の医師が診察・治療をすることがあり、これもセカンドオピニオンの一種ですが、一般的には他の医療機関の医師の意見を聞くことを指します。

本院でもセカンドオピニオンの相談をお受けしています。病院や診療所で診断や治療の説明を受けたが、困ったり、悩んだりしているとき、自分が受けた診断について確信が持てなかったり、決断に至るまでの情報が足りないと思ったときにご利用ください。

がん生殖医療外来

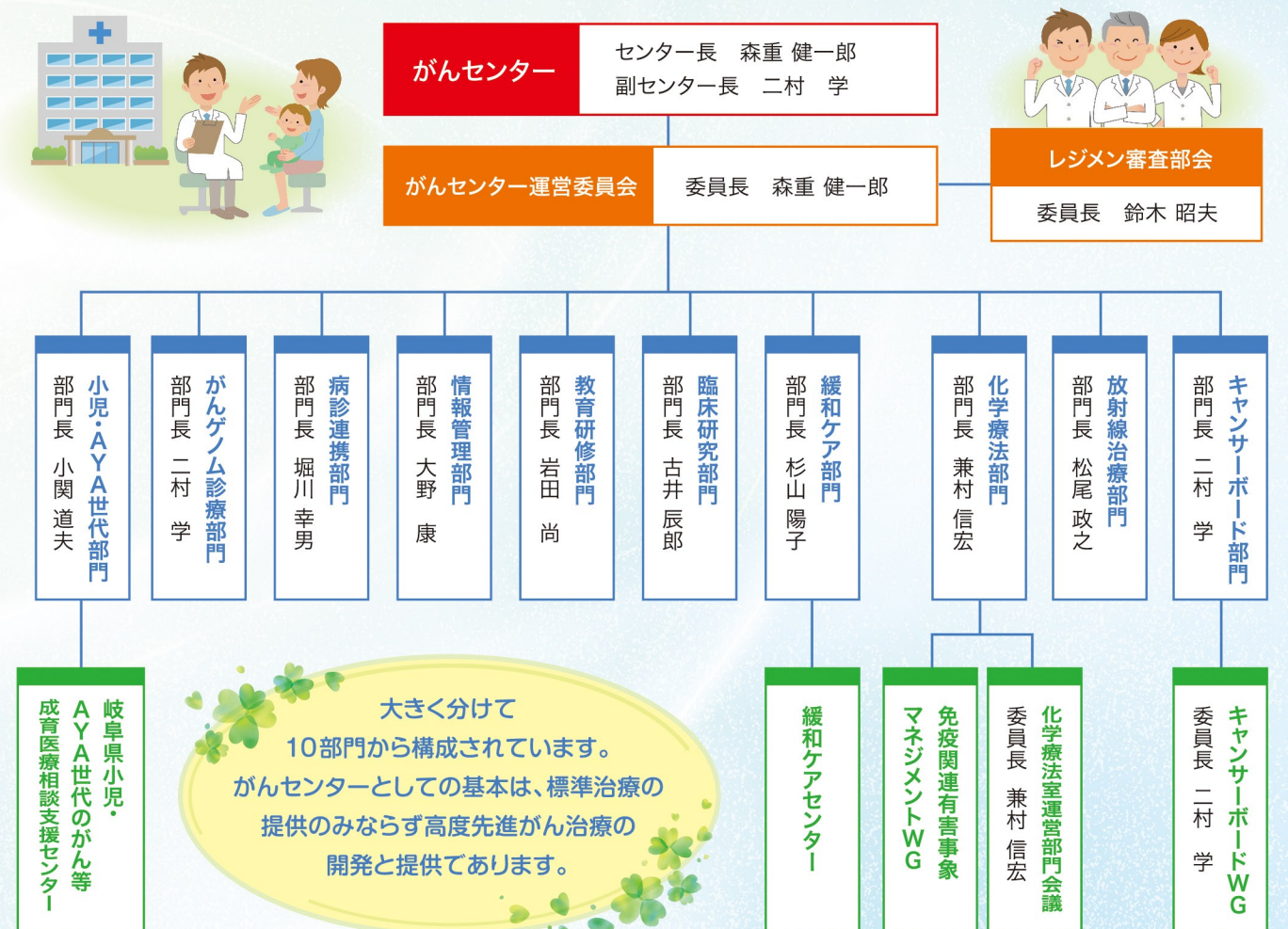
成育医療科・女性科の専門医が、「がん治療による不妊」の予防や対策についてのご相談を伺います。

岐阜県では、将来子どもを産み育てることを望む小児、思春期・若年のがん患者さんが、希望を持ってがん治療に取り組んでいただくことができるよう、平成30年度から、がん治療開始に際して行う生殖機能温存治療に必要な費用の一部を助成しています。



がんセンター組織図

～各診療科のがんの治療を担当する専門医を中心としたチーム医療～



がんセンター各部門のご紹介（抜粋）

キャンサーボード部門 部門長 二村 学

キャンサーボード(CB)とは、手術・放射線・化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師や医療スタッフ等が集まり、がん患者の症状・状態・治療方針等を意見交換し共有・検討・確認するカンファレンスのことです。このCBは患者さんを多方面から多角的に捉え、より良いがん治療を行うために岐阜大学病院の様な「がん拠点病院」では必須といえます。当院では現在年4回、がんを取り扱う全ての診療科が順に担当となり開催しています。その道のエキスパートによるミニレクチャーを最初に行い、続いて事例検討を行い参加者の理解をより一層深める工夫をしています。以前よりも多職種にわたる参加者が増え、院内スタッフのレベルアップにも貢献しています。今後は、治療前患者さんの事例検討を診療科横断的に検討する、そんなCBに育てていきたいと思います。



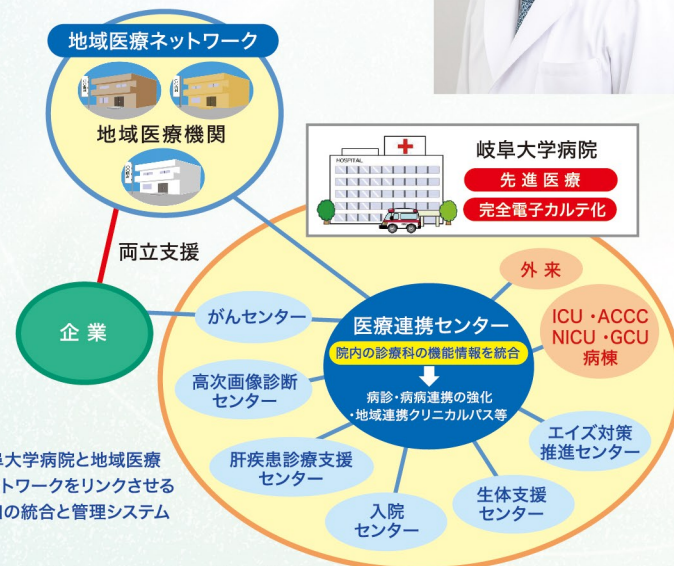
病診連携部門 部門長 堀川 幸男

当院のがんセンターでは、患者さんやそのご家族はもちろん、地域の方々や他の病院・診療所に入通院されている方、医療機関や事業所の労務担当者等、幅広く相談をお受けしております。

今回は「治療と仕事の両立支援」に特化してご紹介します。

当院では、患者さんが治療をしながらも、これまで通り仕事を継続していけるよう、「治療と仕事の両立」を支援する体制を整えています。当院には両立支援コーディネーター研修を修了した医療ソーシャルワーカーが3名在籍しており、患者さんの今後の生活を見据え、治療の不安や疑問を解消するだけでなく、就労に関して主治医や企業との連携サポートも行っています。

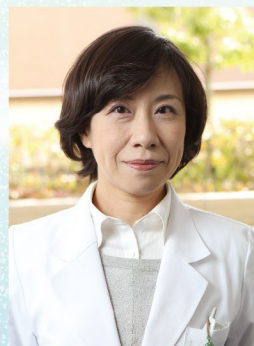
また、院内外を問わず、社会保険労務士による就労相談や社会保険等の公的制度の活用支援、就職支援ナビゲーター（ハローワーク）による就職支援、両立支援促進員（岐阜産業保健総合支援センター）による復職プランの作成や事業場との調整支援等、多方面からより具体的で専門的な両立支援が実施できる体制を整え、日々対応しています。



緩和ケア部門 部門長 杉山 陽子

「診断時からの継続した緩和ケアを目指して多職種で取り組んでいます」

緩和ケアは従来考えられてきた終末期に特化した医療ではなく、病気と診断された時からスタートします。痛みをはじめとした身体症状だけでなく、精神的なつらさ、金銭・仕事など社会的な問題にも患者さんとともに取り組みます。そのため当院の緩和ケアチームは麻酔科医、精神科医、看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーの多職種で構成されており、患者さんだけでなくご家族や病棟・外来スタッフの困りごとにも迅速に対応できるようチーム全員で情報共有しながら活動しています。さらに岐阜県がん診療連携拠点病院の緩和部門として地域の医療機関・在宅医と連携し、切れ目ない医療の提供に取り組んでいます。最近では非がんの難治性疾患への対応も始めました。



小兒・AYA世代部門 部門長 小関 道夫

皆さん、「AYA」とは何か、御存じでしょうか？AYAとは、Adolescent and Young Adultの略で、思春期・若年成人（15歳から30代まで）を意味します。AYA期のがん患者さんは数が少なく、治療法も確立されていません。この時期は就学、就職、結婚、出産など様々な問題を抱えていますが、十分なサポートが受けていないのが現状です。

2017年度より、院内に「岐阜県小児AYA世代のがん等成育医療相談支援センター」を設置し、晩期合



併症、保育・教育・就労・妊よう性・自立・心理的課題の支援など、成人診療科とも連携した支援体制の整備を図り、不安や問題等を抱える患者さんやそのご家族に、高度かつ専門的な相談の場を提供しています。

岐阜県の小児からAYA世代の患者さんの療養生活のお役に立てるよう、チームで取り組んでいきます。



化学療法部門 部門長 兼村 信宏

外来化学療法室は北診療棟の2階にあり、リクライニングチェア27床、ベッド4床(個室2床含む)の計31床で運営しています。患者さんにより安心して化学療法を受けていただくため、「がん専門薬剤師」を含む薬剤師や「がん化学療法認定看護師」を含む看護師、医師による多職種がチームを作り、個々の専門性を活かして治療にあたっています。薬剤師や看護師は、外来主治医の診察前後に、投薬内容の説明や副作

用の発現状況の確認を行っており、安全で円滑な化学療法の実行に貢献しています。抗がん剤の注意点や副作用などについてまとめたパンフレットも作成し、患者さんの不安を軽減するよう常に心がけて取り組んでいます。

化学療法は日進月歩で、常に新薬が登場するため、勉強することが多いのですが、患者さんの安心・安全を第一に今後も診療にあたります。



夏休み お留守番部屋

8月13日(火)～15日(木)

仕事と家庭の両立できる働きやすい職場環境の整備を行い、育児中の職員の離職防止や再就職促進を図る取り組みとして、岐阜大学医学部・同附属病院女性医師就労支援の会の企画のもと、8月13日から15日の3日間、夏休みお留守番部屋が開催されました。

医学部および医学部附属病院の職員の子どもが対象で、各日20人ほどの小中学生が参加しました。

子どもたちは、午前8時から午後5時45分までの間、宿題をしたり、ゲームや目の前でされる科学実験をみたりしながら、お留守番部屋での時間を楽しみました。



利用者からは、「病院の敷地内に託児できる場所があるのは助かる」などの声や、子どもたちからは、「トントン相撲の大会が面白かった」「科学の実験が楽しかった」などの感想が寄せられ、充実した3日間を過ごしてもらうことができました。

第10回 キッズサマースクール

8月22日(木)・23日(金)



8月22日(木)23日(金)に「第10回キッズサマースクール」を開催し、職員の子供たち44人が2日間のプログラムを楽しみました。

今回で10回目を迎えるキッズサマースクールは、岐阜大学医学部・同附属病院 女性医師就労支援の会が毎年開催しているもので、子供たちが保護者と一緒に職場を訪れ、病院各部署の協力で行われる多様なプログラムに参加し保護者の職場に触れながら過ごすことができる企画です。



本年度は、胃力メラ、超音波、カテーテル等の医療検査機器の体験、病院の食事、点字講師を招いての点字講習などを体験しました。

当日は、医学部等の学生に協力いただき、子供たちは、学生と一緒にプログラムに参加することで、保護者が勤務中でも充実した夏休みの時間を過ごすことができました。また、このスクールを通じ沢山の友達もできたようです。協力いただいた学生のみなさんは、元気な子供達とぐったり疲れるまで相手をし、普段子供に接する機会のない学生にとっては、貴重な体験となったようです。

医療向けカツラ・ウィッグ 無料相談・展示会

～誠仁会主催～



次回開催
予定日

日時：令和元年12月11日(水)11:00～14:00 場所：岐阜大学医学部附属病院内 1F 多目的ホール
※予約などの必要はありませんので当日会場までお越しください。

参加無料

岐阜大学における医学教育研究診療支援財団「一般財団法人誠仁会」の主催で「医療向けカツラ・ウィッグ無料相談・展示会」が病院1F 多目的ホールにて開催されました。

治療によって生じる外見の変化により、ウィッグを必要とされる患者さん向けに、数多くの試着用ウィッグが展示されました。ウィッグはレディース、メンズ、ジュニア用の他、帽子やウィッグの下に着用するインナーキャップなどもあり、訪れた多くの患者さんやご家族の方がウィッグを試着しておられました。当日は医療用ウィッグの専門担当者も来院し、ウィッグ選びのポイントやお手入れ方法などについての無料相談もありました。医療用カツラやウィッグが必要な患者さんが気軽に相談できる場所として好評をいただきました。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019

～リレー・フォー・ライフ・ジャパン岐阜 主催～ 10月5日(土)・10月6日(日)



リレー・フォー・ライフ(RFL)は、がん患者さんとそのご家族、支援者の方々が、地域社会とともにがん征圧を目指して絆を育み、勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。公益財団法人日本対がん協会と各地の実行委員会が主催し、本年は、国内約50ヶ所で開催されています。

岐阜大学医学部附属病院は、RFLの趣旨に賛同し、病院の建物に隣接するホスピタルパーク及び職員駐車場を会場として提供。今年も10月5日(土)から10月6日(日)の夜通しで2日間、「～つなげよう次世代へ～垣根を越え集い語ろう」をテーマに開催しました。

初日の開会式では、主催者側の挨拶に続き、吉田病院院長及び森重がんセンター長が挨拶しました。その後、会場内に設置されたウォーキングコースにおいて、がん患者さんやがん経験者による最初の1周であるサバイバーズラップでリレー・ウォークが開始され、翌日のラストウォークまで参加者全員で歩きました。また、会場内に設けられたステージでは、歌の生演奏が行われるなど、たくさんのイベントなどで盛り上がりました。夕刻、ウォーキングコースには、がんで亡くなった方を偲ぶとともに、現在がんと闘っている方を励ますためのルミナリエが灯され、思いの込められたメッセージが暖かい光の中に浮かび上がりました。

2日目は清々しい朝の空気の中、8時から生演奏によるラジオ体操を参加者で行い、ラストウォークの後、閉会式が執り行われました。この2日間に全国から約560名の参加者が集いスケジュールを全て無事に終えました。





平成30年度 患者満足度調査について

本院は「あなたとの対話が創る信頼と安心の病院」の理念のもと、質の高い医療を提供できるよう職員一同努力しております。

今後の医療サービス向上のため毎年患者満足度調査を行っており、入院：平成31年3月4日～8日、外来：平成31年2月12日～15日、18日の期間でアンケート調査を実施しました。ご協力をいただいた皆様及びご家族の皆様にお礼を申し上げるとともに、調査結果の一部についてお知らせします。

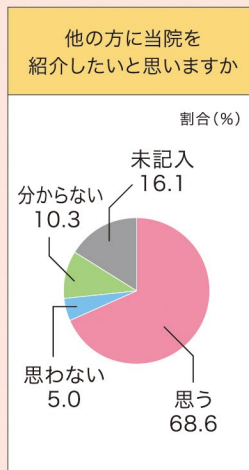
岐阜大学医学部附属病院 さわやかサービス推進室

外来患者アンケート

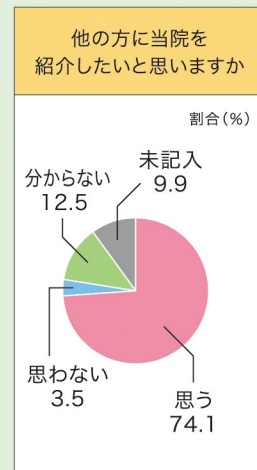
回答者数
432名

入院患者アンケート

回答者数
313名



割合(%)	人数	当院を受診されたきっかけについて (複数選択可)	人数	割合(%)
32.7	289	他の病院・医院・診療所又はかかりつけ医師などからの紹介	223	31.6
12.9	114	医療水準が高い	114	16.2
11.2	99	医療機器等の設備が整備されている	84	11.9
11.4	101	良い医師がいる	70	9.9
9.7	86	以前受診したことがある	77	10.9
8.4	74	通いやすい	39	5.5
3.6	32	対応が良い	32	4.5
2.9	26	家族や知人のすすめ	18	2.6
2.7	24	評判が良い	16	2.3
1.5	13	その他	18	2.6
3.0	26	未記入	14	2.0



平均値	医師についての質問(5段階評価)					平均値
	5	4	3	2	1	
	とても良い たいへん満足	やや良い やや満足	どちらでもない	やや悪い やや不満	とても悪い たいへん不満	
4.34	病気の状態やその治療方法についての説明はわかりましたか					4.58
4.29	治療経過や手術内容などの説明は納得できるものでしたか					4.55
4.26	あなたの症状に関する訴えや話を聞いてくれましたか					4.61
4.45	医師の対応(言葉づかい・態度)はいかがでしたか					4.71
4.17	診療に関わる他職種への指示は適切にされていましたか					4.47
4.24	診療行為・診療に対する姿勢について満足しましたか					4.57
—	退院後に関する説明に満足されましたか					4.36
4.41	主治医に信頼感を感じますか					4.72
平均値	看護師についての質問(5段階評価)					平均値
4.27	話しやすい雰囲気をもっていましたか					4.66
4.22	看護師の説明に納得できましたか					4.56
4.24	あなたの質問や疑問点を聞いてくれましたか					4.60
4.26	看護師の対応(言葉づかい・態度)はいかがでしたか					4.61
4.25	採血・注射・処置等の対応はどうですか					4.49
4.25	看護師に対する信頼感を感じますか					4.58
平均値	その他の職員についての質問(5段階評価)					平均値
4.11	診療に関わるあなたの思いや希望は適切に伝達されていましたか					4.52
4.24	案内・説明はよくわかりましたか					4.54
4.27	言葉づかい・態度はいかがでしたか					4.60
4.26	医療技術はいかがでしたか					4.55
平均値	総合的評価についての質問(5段階評価)					平均値
4.31	当院を受診又は入院して総合的に評価するとどれにあてはまりますか					4.53

※他の結果は病院HPに掲載します。